

第12回一職場一事例運動交流集会ニュース

2017/11/30

第4号

第12回一職場一事例運動交流集会を開催しました

事例を通じて権利としての社会保障を守る
～現場の私達にできること～

11月25日(土)午後、
県民ふれあい会館5階講義
室で第12回一職場一事例
運動交流集会を開催しまし
た。



発な応答があり、内容を
さらに掘り下げ、考える
ことができました。

設定したテーマにふさわしく、日常業務の中で患者さん、利用者さんの困難事例に寄り添い、一緒に解決策を探り、制度改善の運動にもつなげることを多くの職種の人たちが一緒に考える良い機会になったと思います。

演題発表は8例。発表者の職種も様々で、無料低額診療、金銭的問題、生活再建、生活保護、家族とのかかわり、DV(ドメスティック・バイオレンス)、居住場所、高齢者住宅、安息の地、アドボケート(権利の擁護者)などのキーワードを含む多様な内容の発表でした。

参加者は76名で、前年より少し減少しましたが、発表5分、質疑8分の時間では足りなくなるくらい活

民医連の周りの多くの人や団体と一緒に問題解決に取り組むことの重要性も明らかになりました。

参加者アンケートから

から

...

・職員の援助が生きる意欲になったり、人間関係を作っていくことになったのではないかと思います。



- ・あきらめず取り組む民医連職員に拍手をおくります。
- ・職員の取組に感動した。一方、社会制度や地域のあり方への働きかける視点が不足している気がした。綱領の視点が大切
- ・多職種の事例を聞くことができ、刺激になりました。
- ・いろんな視点で学ぶことができた。
- ・制度についてもっと学習していきたい
- ・ほか、発表の際の倫理的配慮、参加の呼びかけ、会場の空調、駐車場の問題など運営面での声もいただきました。来年の運営に活かしていきます。

